

次代を担う新しい医療を開拓するセンター

先端医療開発や医工連携などにおける実用化研究の支援、ならびに臨床研究・治験の適正かつ円滑な実施の支援を行い、名大病院のミッションの一つである“次代を担う新しい医療を開拓”するセンターです。

業務体制

センター長（兼任）および専任教員4名のもとで、先端医療支援部門では技師6名、事務2名が、臨床研究支援部門では、治験事務6名、臨床研究審査業務・薬品管理7名、クリニカル・リサーチ・コーディネーター18名、データマネージャー4名、モニタリング担当2名が業務の実施に当たっています。



業務内容

先端医療支援部門では国内最大級のバイオマテリアル調製室を有し、その運営は国際的な品質保証の基準に基づいて厳密な管理下で行われています。ここでは遺伝子製剤、培養細胞、培養組織など、新しい医療に欠かせない生物製剤を診療科に提供し先端医療を支援しています。また臨床研究支援部門では、新薬の効果や安全性を調べる「治験」や上記の「先端医療」のほかさまざまな臨床研究について、法令や指針を遵守しつつ、科学的かつ倫理的に進めるための支援を行っています。

特色

データマネジメントおよび生物統計学に精通した教員を配置し、臨床試験の実施計画書作成から遂行・解析までの支援を実施しています。当センターでは、国際的なルールであるICH-GCPを遵守して、被験者の権利、安全、福利を守るとともに、データの信頼性を確保した質の高い臨床試験の実施の支援に努めています。

その他の取り組み

先端医療のシーズ開拓のため、特許フェアやトラスレーショナルリサーチ懇話会などを開催し、情報の発信と産官学の交流に努めています。また毎年、市民公開講座を開催し、臨床試験の重要性を啓発するとともに、国民の医療に対する関心を高めるよう努力しています。



がんの薬物療法の質の向上を目指して

がん薬物療法を専門とする部門です。外来化学療法室を中心に最適で安全な抗がん剤治療を行っています。

診療体制

がん薬物療法を専門とする専任医師が配置され、病院全体のがん薬物療法の質の向上を目的に、各診療科の医師、看護部、薬剤部と連携しています。各診療科からのコンサルテーションだけではなく、専用の入院病床も主治医として運用しています。



業務内容

消化器がん、乳がん、肺がんなど臓器別のがんを専門とする診療科と連携しながら、外来化学療法室、緩和ケアチーム、化学療法レジメンの整備、抗がん剤の臨床試験、がん薬物療法に関わる教育・研修などの業務を行っています。

特色

世界標準の抗がん剤治療を臓器横断的に実施するとともに、がんによる症状や治療の副作用に対する緩和ケアを実践しています。新規抗がん剤の開発治験や、院内外が多職種を対象とした化学療法の教育・啓蒙にも積極的に取り組んでいます。

診療実績

外来化学療法室では現在1日30件の外来化学療法を行っています。緩和ケアチームは2006年7月から2012年3月までに計180件の依頼に継続的に対応してきました。2009年度より8つの新規抗がん剤開発治験を受託しています。

専門外来

専門外来として緩和ケアを行っています。



その他の取り組み・研究

「地域がん診療連携拠点病院」としての業務、教育面では文部科学省の事業「がんプロフェッショナル養成プラン」に参画しています。研究では大学院生を中心に抗がん剤の副作用の個人差に着目した研究を進めています。

